

クイック・レファレンス・ガイド

| | | | |
|-----------|---|---|---|
| | 36 TALAS RC2 + 36 TALAS R | 36 VAN RC2 + 36 VAN R | |
| 専門用語の定義 | <ul style="list-style-type: none"> > トラベル量：フォークの圧縮総量。 > サグ：通常の乗車ポジションで自転車に乗った際のフォークの圧縮量。 > 圧縮ダンピング：フォークの圧縮レートを制御します。 > リバウンド・ダンピング：フォークの伸張レートを制御します。 > プレロード：スプリングにかかる初期の力の量。 > スプリングレート：スプリングを1インチ圧縮するのに必要な力 > FLOAT：Fox ロードオプティマムエアテクノロジー > Vanilla：FOXのコイルスプリングテクノロジー > TALAS：Travel Adjust Linear Air Spring（トラベル量調整リニアエアスプリング）の頭字語。 | | |
| メンテナンスの間隔 | <ul style="list-style-type: none"> > 各走行前のチェック表面の洗浄と乾燥 > 25 時間ごと：ダストワイパーの洗浄および検査/フォームリングに潤滑油をつける > 100 時間ごと：ドロップアウトの厚さを検査し、構造上の点検を行なう > 走行 200 時間ごと、または年に一度：ブッシングの点検/オイル交換 > 走行 3000 時間ごと、または 18 ヶ月に一度：TALAS のフロート液とシールの変更 | | |
| ツールおよび備品 | <ul style="list-style-type: none"> > ゴーグル > バケツ/受け皿 > ペーパータオルおよび布切れ > プラスチック面のあるハンマー/マレット > トルクレンチ (in-lb / N-cm) > cc または mL 単位の計量容器の計量容器 | <ul style="list-style-type: none"> > 32mm の 6 ポイントのソケット > 10mm のオープンエンドまたはソケット > 15mm のオープンエンドまたはソケット > 2mm のヘキサキー > FOX サスペンション液 1 qt. (946 ml) ボトル、7 wt. FOX P/N: 025-03-004 > FOX エアポンプ FOX P/N: 027-00-001 | |
| トルク値 | <ul style="list-style-type: none"> > トップキャップ：419,10 cm-lb (1864 N-cm) > 左側底部のナット 127,00 cm-lb (565 N-cm) > 右側底部のナット 127,00 cm-lb (565 N-cm) > 軸および軸ピンチボルト：48,26 cm-lb (215 N-cm) > リバウンド調節ノブ：27,94 cm-lb (124 N-cm) > 低高速圧縮調節ノブ：4 in-lb (45 N-cm) | | |
| オイル量 | <ul style="list-style-type: none"> > ダンパー：55cc > ダンパー・バス：25cc > スプリング/ブッシング：15cc > IFP エアチャンバ：3cc > メインエアチャンバ：5cc > ネガティブ・エア・バルブ：3cc | <ul style="list-style-type: none"> > ダンパー：55cc > ダンパー・バス：25cc > スプリング/ブッシング：25cc | |
| 免責事項 | <p>FOX Racing Shox は、お客様のフォークまたは自転車の走行、移送、その他の使用によってお客様あるいは他者に発生した損害について責任を負いません。お客様のフォークが故障または正常に作動しない場合でも、FOX Racing Shox は、本マニュアルの保証事項の規定に従ったお客様のフォークの修理または交換を超える一切の責任または義務を負わないものとします。</p> | <p>保証に関する特別免責事項</p> <ul style="list-style-type: none"> > 通常の使用による摩耗および損傷、または通常のメンテナンスによって交換された部品。 > 通常の使用により摩耗、損傷する部品、および通常のメンテナンスを要する部品。 > 乱暴な使用により損傷を受けた部品。 > ブッシング > シール (90 日間のシールの保証有効期限内) > サスペンション液 | |
| 保証書 | <p>お買い上げのフォークの工場保証期間は、自転車またはフォークをお買い上げになった日から 1 年間 (EC 加盟国のお客様は 2 年間) とさせていただきます。保証サービスをお受けになる場合には、フォークをご購入時の元のレシートが必ず必要となります。保証に関しては、FOX Racing Shox がすべての決定権を有し、故障の原因となった材料および技術料のみをカバーします。保証期間および規約については、州あるいは国で異なることがあります。</p> <p>また、お買い上げのフォークのシールについては、ご購入の日から 90 日間の有効期間となります。90 日の有効期間後は、通常の磨耗および消耗部品と見なされ、保証の対象外となります。</p> <p>通常の使用により摩耗、亀裂を起こす部品、コンポーネント、アセンブリに関しては、本保証の対象外となります。</p> <p>最終的な保証の決定権は、FOX Racing Shox が保持するものとします。</p> | <p>保証に関する一般免責事項</p> <ul style="list-style-type: none"> > 純正 FOX Racing Shox 部品と同等の品質を持たないパーツまたはアクセサリへの取り付け。 > 無理な引っ張り、放置、乱暴な取り扱いや誤用。 > 事故または衝突による破損。 > オリジナル・パーツの改造。 > 適切なメンテナンスを怠った場合。 > 輸送時の破損、紛失 (全額保障の輸送保険への加入をお勧めします)。 > 不適切なケーブル設置、岩石、衝突、あるいは不適切な取り付けにより発生した外部または内部の破損。 > オイル交換またはサービスは、FOX Racing Shox または認定サービスセンターでは行ないません。 | |
| 保証説明 | <ul style="list-style-type: none"> > FOX Racing Shox は、場合により所要時間は異なりますが、保証対象の作業を 48 時間以内に完了します。 > 800.FOX.SHOXへ電話し、FOX Racing Shox に RA (返品確認) 番号と返送先住所をお尋ねください。米国外のお客様は、担当地域の国際サービスセンターにご連絡ください。 > RA、(返品確認) 番号および返送先をパッケージの外側に明記の上、対象製品を FOX Racing Shox あるいはお近くの国際サービスセンターにお送りください (なお、返送料金はお客様の負担となります)。 > 保証を受ける場合には、製品ご購入時の領収書が必要となります。 > パッケージ内には、問題点、自転車に関する情報 (製造メーカー、製造年月日、モデル)、FOX 製品のタイプ、スプリングレートおよび送り先の住所と昼間の連絡先電話番号を記載した紙をお入れください。 | | |
| 連絡先 | <p>FOX Racing Shox 130 Hangar Way Watsonville, CA 95076 USA 電話北米：1.831.274.6500 1.800.FOX.SHOX (369.7469) ファックス：1.831.768.9312 Eメール：service@foxracingshox.com ウェブサイト：www.foxracingshox.com 営業時間：月～金 太平洋標準時間午前 8 時～午後 5 時</p> | <p>支払いおよびお届け方法</p> | <p>Visa、Master カード、小切手をご利用頂けます。</p> <p>FOX Racing Shox は米国内のお客様に対し UPS Ground サービスで出荷しています。</p> |

目次

| | |
|--|-----|
| クイック・リファレンス・ガイド | 100 |
| このたびは、当社のサスペンション部品をお買い上げいただき、ありがとうございます。.. | 103 |
| 安全事項 | 103 |
| 重要安全情報 | 103 |
| FOX 36 の取り付け方法 | 104 |
| タイヤサイズ | 104 |
| ディスクブレーキの取り付け方法 | 105 |
| フォークの用語 | 106 |
| FOX 高圧エアポンプ使用法 (36 TALAS) | 106 |
| サグの設定 (36 TALAS) | 106 |
| サグの設定 (36 VAN) | 107 |
| スプリングのチューニング | 108 |
| コイルスプリングの取り替え | 108 |
| トラベル量の変更 (36 TALAS) | 109 |
| リバウンド調節 (全モデル) | 109 |
| 高速圧縮調節 (RC2 のみ) | 110 |
| 高速圧縮調節器の「ブースト」機能 (RC2 のみ) | 110 |
| 低速圧縮調節 (RC2 のみ) | 110 |
| 油圧ボトムアウトシステム | 111 |
| 各走行前点検 | 111 |
| メンテナンスの間隔 | 111 |
| シールおよびフォームリング | 112 |
| シールおよびフォームリングに関するサービス | 112 |
| 構造上の点検 | 112 |
| アッパーチューブ | 112 |
| クラウン | 112 |
| ローアーレグ | 112 |
| ブッシングテクノロジーと検査 | 113 |
| ショールームテスト | 113 |
| 実地テスト | 113 |
| オイル交換 (36 TALAS のみ) | 113 |
| TALAS のメンテナンス | 115 |
| オイル交換 (36 VAN のみ) | 115 |
| チューニング時の注意事項 | 119 |

外国語版

| | |
|-------|-----|
| フランス語 | 20 |
| イタリア語 | 40 |
| オランダ語 | 60 |
| スペイン語 | 80 |
| 日本語 | 100 |

国際サービスセンター

120



は、これに従わない場合には、致命的になりかねない重傷またはお買い上げのフォークに激しい損傷をもたらす危険性がある情報を意味します。



は、一見わかりにくい、または問題が起きた際に役立つ情報を意味します。

| | TALAS RC2 | TALAS R | VAN RC2 | VAN R |
|-------|--|---|--|---|
| トラベル量 | TALAS—6インチ(150mm) — 4.3インチ(110mm) | | 6.3インチ(160mm) | |
| 機能 | <ul style="list-style-type: none"> > コイルスプリングのチューニング > リバウンド > 低速圧縮 > 高速圧縮 > 位置検出ダンパー > 外部調節可能なトラベル | <ul style="list-style-type: none"> > エアプリングのチューニング > リバウンド > 位置検出ダンパー > 外部調節可能なトラベル | <ul style="list-style-type: none"> > コイルスプリングのチューニング > リバウンド > 低速圧縮 > 高速圧縮 > 位置検出ダンパー | <ul style="list-style-type: none"> > コイルスプリングのチューニング > リバウンド > 位置検出ダンパー |
| 調整 | <ul style="list-style-type: none"> > リバウンド：ノブ (赤色) > プレロード：シュレーダーバルブ 経由 > 高速圧縮：大きいダイヤル (青色) > 低速圧縮：小さいダイヤル (青色) > トラベル量調節：TALAS レバー (青色) | <ul style="list-style-type: none"> > リバウンド：ノブ (赤色) > プレロード：シュレーダーバルブ > トラベル量調節：TALAS レバー (青色) | <ul style="list-style-type: none"> > リバウンド：ノブ (赤色) > プレロード：ノブ (青色) > 高速圧縮：大きいダイヤル (青色) > 低速圧縮：小さいダイヤル (青色) | <ul style="list-style-type: none"> > リバウンド：ノブ (赤色) > プレロード：ノブ (青色) |



このたびは、当社のサスペンション部品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この度は、FOX 36をお選びいただき、ありがとうございます。本製品は、世界有数のサスペンションフォークとして知られています。FOX Racing Shoxの全製品は、カリフォルニア州サンタクルーズで、業界屈指のスペシャリストによって設計、テスト、製造されています。

FOX Racing Shox製品を取り付ける際には、最高の性能を発揮できるようフォークを正確にセットアップしてください。このマニュアルでは、フォークのセットアップとメンテナンス方法をステップごとに説明しています。また後日、アフターサービス、保証を受ける際のお買い上げ証明としてレシートが必要となりますので、本マニュアルと共に保管することをお勧めします。

メンテナンスに関する詳細な説明は、Fox サービスマニュアルの該当製品の項目をご覧ください。このマニュアルでは、ステップごとの精密な点検修理作業の説明を、意図的に行なっていません。精密な点検修理作業は、FOX Racing Shoxあるいは認定FOX Racing Shox サービスセンターで行うことをお勧めしています。

安全事項

- > お手持ちの自転車およびサスペンションシステムを、常に最高の状態に維持してください。
- > 走行時には、体を保護する服、目を保護するためのゴーグル、ヘルメットを常に着用してください。
- > ご自身の限界を知り、その範囲内で走行します。
- > 国際マウンテンバイク協会のトレイル規則に従います。詳しくは、www.imba.com をご覧ください。
 1. オープントレイルのみを走行します。
 2. トレースを残さないようにします。
 3. 自転車を制御します。
 4. トレイルでは、常に道を譲ることを心掛けます。
 5. 動物を愛護します。
 6. しっかりと計画を立てます。

重要安全情報

- > 自転車の乗車前には、必ずブレーキが正しく取り付けられ調整されているかどうか確認します。ブレーキが正しく取り付けられていなかったり、正しく調整されていなかったりすると、乗り手に重度あるいは致命的な傷害を引き起こすことがあります。ブレーキは、Fox 36への装着用に各メーカーが設計したディスクブレーキのみを使用します。"V スタイル"ブレーキは、Fox 36には使用できません。ブレーキケーブルやブレーキ収納部をステムに通さないでください。
- > フォークからオイルが漏れていたり、上下に激しく動いたり、異常なノイズを発する場合は、直ちにFOX Racing ShoxまたはFOX Racing Shoxの正規サービスセンターに連絡してください。その状態で引き続きフォークを使用すると、コントロールを失い、重度あるいは致命的な傷害を引き起こすことがあります。スプリングの音、オイルが流れる音、小さいクリック音などは異常ではありません。
- > FOX Racing Shox 部品だけを使用してください。Fox 36にアフターマーケット部品（非純正部品）を使用すると、保証が無効になります。アフターマーケット部品を使用すると、構造上の不具合が生じ、その結果、コントロールを失い、重度あるいは致命的な傷害を引き起こすことがあります。
- > ドロップアウト部分でフォークを固定するよう設計されたキャリアに自転車を固定させる場合は、自転車がどちら側にも傾かないよう十分注意する必要があります。ドロップアウト付きの自転車をキャリアに固定した状態で傾けると、フォークに構造上の損傷を与える場合があります。フォークが自転車のキャリアの通過軸取り付け部分でしっかり固定され、リアホイールも正しく固定されていることを確認します。4個の軸ピンチボルトを自転車のキャリアに取り付ける際に、仕様書のトルク値になるように締めます。自転車がキャリアに固定された状態で傾いたり、キャリアから落ちた場合は、正規ディーラー、認定サービスセンター、またはFOX Racing Shoxの検査を受けるまで乗車しないでください。フォークレグやドロップアウトに問題があると、コントロールを失い、重度あるいは致命的な傷害を引き起こすことがあります。
- > Fox 36にはオンロード用のリフレクターは含まれていません。Fox 36は競争用オフロード走行およびレース用に設計されています。このフォークを一般道路の走行に使う場合は、米国消費者製品安全委員会 (CPSC) の規定に準拠する適切なリフレクターを取り付ける必要があります。
- > Fox 36にはクラウン/ステアラー/アッパーチューブアセンブリがあります。これらの部品は、一回の精密圧入加工によってアセンブリにプレスされます。これらのどの部品を交換する場合にも、新しいアセンブリー式が必要となります。ステアラーやアッパーチューブをクラウンから外したり交換したりすることは、避けてください。また、溝なしのステアラーに溝を付けないでください。このクラウン/ステアラー/アッパーチューブアセンブリを改造すると、自転車のコントロールロスにつながり、重度あるいは致命的な傷害を引き起こすことがあります。

FOX 36 の取り付け方法

FOX 36 は、資格のある自転車整備士による取り付けが必要です。間違っ て取り付けると、コントロールロス を招き、その結果、重 度または致命的な障害を引き起こすことがあります。

1. 自転車から、現在取り付けられているフォークを取り外します。フォークからクラウンレースを取り外します。現在取り付けられているフォークのステアラーチューブの長さを測定します。FOX 36 ステアラーにも同じ測定値を使います。ステムメーカーの使用説明書を参照して、ステムを締めるのに必要な長さが残っているかどうかを確認します。ステアラーチューブを切断しなければなら ない場合は、2 回長さを測定し 1 回で切ります。ステアラーチューブを切る際に、カッティングガイドツールを使うこと をお勧めします。

ステアラーに切れ目や溝がある場合は、クラウン / ステアラー / アッパーチューブアセンブリを交換する必要があります。切れ目や溝があると、ステアラーに修理不能の故障が生じ、コントロールを失い、その結果、重 度または致命的な障害を引き起こすことがあります。

2. クラウンレースセッターを使い、クラウンの上部にクラウンレースをしっかり装着します。星状のつばがついたナットを、そのナット専用のツールでステアラーチューブに取り付けます。
3. 自転車にフォークを取り付けます。ステム、ステムキャップ、M6 ステムキャップボルトを取り付けます。ステムキャップボルトを軽く締めて、フォークが抵抗や緩みのない状態で自由に回転するようにします。

タイヤサイズ

4. FOX36 は幅 2.80 インチ (71mm) までのタイヤに使用できます。26 x 2.60 インチ (660 mm x 66 mm) 以上のタイヤに対しては、以下の方法でクリアランスチェックを行う必要があります。タイヤをリムに取り付けて空気を入れ、以下の 3 つの長さを測定します。

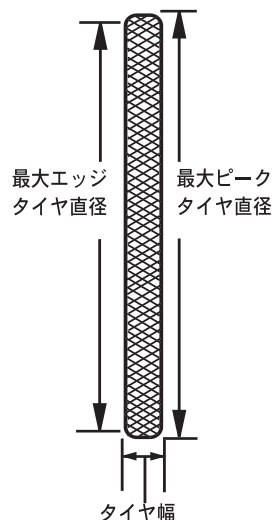
| | | |
|--------------|-------|------------|
| 最大ピークタイヤ直径 = | 694mm | = 27.3 インチ |
| 最大エッジタイヤ直径 = | 670mm | = 26.4 インチ |
| 最大タイヤ幅 = | 71mm | = 2.80 インチ |



上記の最大値を 1 つでも超えるタイヤは使用しないでください。上記の最大値を超えるタイヤの使用は、重 度または致命的な傷害を引き起こす原因となるので、お勧めできません。

5. 前輪の取り付け方法：

- a. ローアーレグの 4 つの軸ピンチボルトを 5mm のヘキサキーレンチで緩めます。
- b. 軸を、5mm のヘキサキーレンチで左回りに回して緩め、取り外します。
- c. 前輪をドロップアウトに取り付け、軸をローアーレグに取り付けます。
- d. レッグに、軸を 5mm のヘキサキーレンチで右回りに回して軽く締め続け、19 in-lb (215 N-cm) のトルク値になるまで締めます。
- e. 左側のドロップアウトピンチボルト 2 つを、19 in-lb (215 N-cm) のトルク値で締めます。
- f. 自転車のフォークを 2、3 回圧縮し、右側のドロップアウトをフロートさせ、摩擦の低いポイントに安定させます。右側のドロップアウトピンチボルト 2 つを 215 N-cm のトルク値で締めます。



6. ハンドルバーをまっすぐに設定して、ステムボルトをトルクで締める方法：自転車を地面に置いて、またがり、ハンドルバーを前輪に対してまっすぐ設定します。ステムピンチボルトを締め、ステムメーカーのトルク指定値に従ってネジを締めます。ハンドルバーピンチボルトが、ステムメーカーのトルク指定値に従って締められているかを、確認します。

ディスクブレーキの取り付け方法

7. ディスクブレーキの取り付け方法：FOX 36は、ディスクロータサイズが160 - 205mmのディスクブレーキへの使用のみを前提に国際XCディスクブレーキボルトパターンを用いて設計されています。FOX 36にはXCまたはDH機械あるいは油圧式ブレーキシステムを使用できます。



絶対にローアーレグを改造したり、カンチレバーリムブレーキを使用したりしないでください。

Fox 36 ディスクボルトパターンには、下記を使用します。

XC サイズのローター (外径 160 - 180mm) への使用：

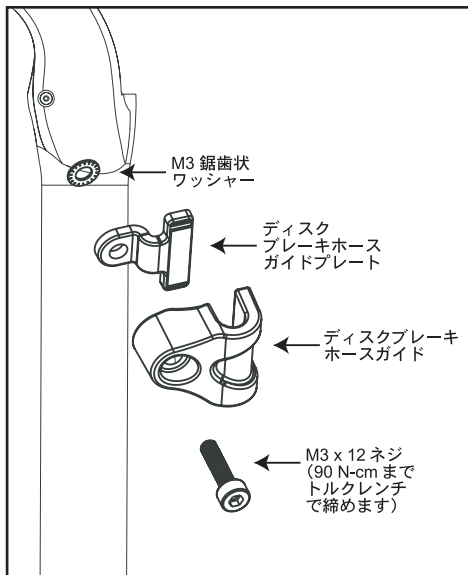
- XC キャリパー
- 国際 XC 搭載パターンの XC キャリパー搭載

DH サイズローターとの使用 (外径 200 ~ 205mm)

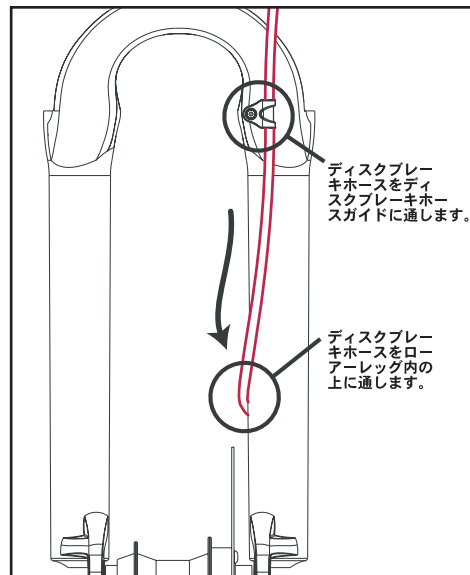
- XC キャリパー
- 国際 XC 搭載パターンの DH キャリパー搭載

又は

- a. DH ディスクブレーキシステムを、ディスクブレーキメーカーの指定に従って取り付けます。ネジやボルトはすべて、メーカーの推奨値に従って締めるようにします。適切な取り付け手順は、ディスクブレーキ付属のマニュアルを参照します。アライメントを適切に維持し、ずれを最小にするため、新しいディスクブレーキパッドを取り付けることをおすすめします。トレイル走行前に、平らな場所でブレーキが正しく作動するかをテストします。
- b. ディスクブレーキホース (油圧ディスクブレーキの場合) またはブレーキケーブル収納部 (機械ディスクブレーキの場合) を、キャリパーからローアーレグの内側と付属のディスクブレーキホースガイドに通し、次頁の図のように、FOX ディスクブレーキホースガイド部品を組み立てます。ブレーキホースやブレーキケーブル収納部を正しい長さに切り、ディスクブレーキメーカーの指定に従って組み立てます。ディスクブレーキホースガイドネジを、2.5mm のヘキサキーレンチでトルク値が 90 N-cm になるように締めます。



ディスクブレーキホースガイドパーツオリエンテーション



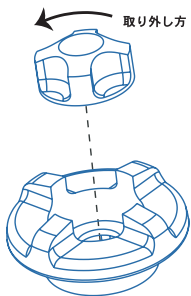
ディスクブレーキホースガイドプレート

フォークの用語

- > **トラベル量**：フォークの圧縮総量。
- > **サグ**：通常の乗車ポジションで自転車に乗った際のフォークの圧縮量。
- > **圧縮ダンピング**：フォークの圧縮レートを制御します。
- > **リバウンド・ダンピング**：フォークの伸張レートを制御します。
- > **プレロード**：スプリングにかかる初期の力の量。
- > **スプリングレート**：スプリングを1インチ圧縮するのに必要な力。

FOX 高圧エアポンプ使用方法 (36 TALAS)

FOX の高圧エアポンプ (右図を参照) を使って FOX 36 TALAS 内の圧力を変更します。



1. ノブ内のエアキャップを取り外します (左図を参照)。ポンプゲージのシュレーダーバルブにチャックを通し、ポンプが接続するようにします。これには約6回転必要です。フォークに空気圧がない場合は、ゲージに圧力が表示されません。この際、締めすぎるとポンプのチャックシールに損傷を及ぼすことがありますので、注意してください。



FOX 高速圧縮ポンプ

2. ポンプを数回回転させて圧力を上げます。圧力が少しずつ増えていくはずですが、圧力が急激に上昇する場合は、ポンプがシュレーダーバルブに正しく接続されているかどうかをチェックしてください。

3. 圧力を低くする場合には、黒いブリードバルブを押してください。ブリードバルブを半分ぐらいまで押したまま維持すると、継続的に減圧できます。ブリードバルブを最後まで押すと、徐々に減圧できます (マイクロ調節)。

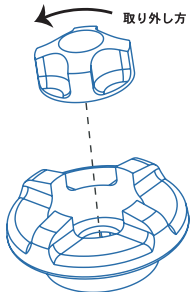
4. ポンプはチャックを外すことで取り外します。空気が漏れる音はポンプのホースから聞こえ、フォークからは聞こえません。

5. エアキャップをした後、乗車します。



ポンプをつなげる場合、ポンプホースにエアが入るため、ゲージは通常より低い 2 - 8 psi (0,14-0,55 bar) を示します。正常な圧力は 45psi と 125psi (3.1 .8.6) の間です。絶対に 200 psi を越えないで下さい。

サグの設定 (36 TALAS)



お買い上げの FOX Racing Shox の性能を最大限にするには、サグを設定・調節する必要があります。一般的には、サグはフォーク全体のトラベル量の 15 - 25% に設定します。お手持ちの FOX 36 TALAS フォークのサグを調節するには：

1. TALAS レバーを 160mm トラベルセッティング (時計の 9 時の位置) まで完全に右回りに回して設定し (109 ページの 36 TALAS のトラベル量変更を参照)、フォークが完全に伸び切るようにフォークを数回回します。

2. 次頁の **エアスプリング設定表** を参照し、FOX 高圧エアポンプを使用し、TALAS フォークが正しい空気圧になるように空気をいれます (上記 **FOX 高圧エアポンプ** 使用法参照)。

3. アッパーチューブに少し摩擦が生じるぐらいにジップタイを取り付け、フォークシールに接触するまで下方に押します。注意して自転車に乗り、通常の乗車ポジションを取ります。フォークがかすかに圧縮するはずですが、それ以上フォークを圧縮しないように注意し、自転車から降ります。シールとジップタイの距離を測ります。これがお客様のサグです。

4. サグ測定値を下記の 36 TALAS サグ設定表と照らし合わせます。

サグ値が表の値より低い場合はエアトップキャップを外し（左図参照）、FOX 高圧エアポンプのフィッティングを締め、現在の空気圧設定を書き留め、黒いブリードバルブを押してゲージ圧を 5 psi (0.3bar) 下げます。必要であれば、再度サグを測り、調節します。

サグ値が表の値より高い場合はエアトップキャップを外し、FOX 高圧エアポンプのフィッティングを締め、現在の空気圧設定を書き留め、ポンプしてゲージ圧を 5 psi (0.3bar) 上げます。必要であれば、再度サグを測り、調節します。

36 TALAS エアスプリング設定

| 乗り手の体重 | 空気圧 |
|-----------------------|------------------|
| 56.6 kg 未満 57 kg. | 45 psi (3,1 bar) |
| 56.6 ~ 61.2kg (57-61) | 48 psi (3,3) |
| 61.2 ~ 65.6kg (61-66) | 50 psi (3,4) |
| 65.6 ~ 70.2kg (66-70) | 53 psi (3,6) |
| 70.2 ~ 77.0kg | 55 psi (3,8) |
| 77.0 ~ 83.8kg | 62 psi (4,3) |
| 83.8 ~ 90.6kg | 69 psi (4,8) |
| 90.6 ~ 97.4kg | 76 psi (5,2) |
| 97.4 ~ 104.2kg | 83 psi (5,7) |
| 104.2 ~ 113.3kg | 90 psi (6,2) |

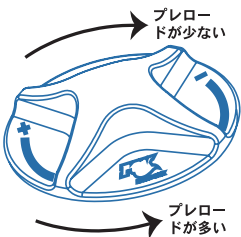
36 TALAS サグ設定

| トラベル量: | XC / Race FIRM | フリーライド PLUSH |
|--------------|----------------|--------------|
| 110mm (4.3") | 17mm (0.67") | 28mm (1.10") |
| 150mm (5.9") | 23mm (0.91") | 38mm (1.5") |

36 TALAS サグのトラブルシューティング

| 兆候 | 処置 |
|-------------------------|------------------|
| サグが大きすぎる状態 | 5psi 単位の (+) 空気圧 |
| サグが小さすぎる状態 | 5psi 単位の (-) 空気圧 |
| ボトミングが大きすぎる状態 | 5psi 単位の (+) 空気圧 |
| 固い乗心地、フルトラベルが有効に使われていない | 5psi 単位の (-) 空気圧 |

サグの設定 (36 VAN)



お買い上げの FOX VAN フォークの性能を最大限にするには、サグを設定して調節する必要があります。一般に、フォークのトラベル総量の 15-25% にサグを設定します。お手持ちの 36 VAN fork のサグを調節するには：

1. アッパーチューブに少し摩擦が生じるぐらいにジップタイを取り付け、フォークシールに接触するまで下方に押します。注意して自転車に乗り、通常の乗車ポジションを取ります。フォークがかすかに圧縮するはずですが、それ以上フォークを圧縮しないように注意し、自転車から降ります。シールとジップタイの距離を測ります。これがお客様のサグです。
2. 計測によって得られたサグ値を、次項の 36 VAN のサグ設定表が示す数値と比較します。

サグ値が表より低い場合は、プレロードノブを左回りに完全に1回転させます。必要であれば、再度サグを測り、調節します。

サグ値が表より高い場合は、プレロードノブを右回りに完全に1回転させます。必要であれば、再度サグを測り、調節します。プレロードノブを調節しても正しいサグ値が得られない場合は、異なるスプリングレートのコイルスプリングを使用する必要があります。また次頁の 36 VAN サグに関するトラブルシューティング表を参照し、コイルスプリングを取り替える必要があるかを判断します。

36 VAN サグ設定

| トラベル量: | Race FIRM | フリーライド PLUSH |
|-----------------|------------------|------------------|
| 6.3 インチ (160mm) | 15/16 インチ (24mm) | 1 1/2 インチ (40mm) |

36 VAN サグに関するトラブルシューティング

| 兆候 | 処置 |
|-------------------------|---------------------|
| サグが大きすぎる状態 | レートの高いコイルスプリングに変更する |
| サグが小さすぎる状態 | レートの低いコイルスプリングに変更する |
| ボトミングが大きすぎる状態 | レートの高いコイルスプリングに変更する |
| 固い乗心地、フルトラベルが有効に使われていない | レートの低いコイルスプリングに変更する |

スプリングのチューニング

下記のコイルスプリングガイドライン一覧を参照し、適切なサグを得るために、お手持ちの FOX 36 VAN のコイルスプリングを取り替える必要があるかを判断します。Fox 36 VAN は、左側のコイルスプリングのみを変更してチューニングします。コイルスプリングは色分けされており、また乗り手の体重によっては変更する必要があります：

コイルスプリングのチューニング

| Fox 部品番号 | スプリングレート | カラーコード | 乗り手の体重 (lbs.) |
|------------|------------------------|--------|---------------------|
| 039-05-050 | 15.88 kg/in (395 N-cm) | 黒 | 90-120 (41-54 kg) |
| 039-05-051 | 18.14 kg/in (452 N-cm) | 紫 | 120 - 150 (54-68) |
| 039-05-052 | 20.41 kg/in (508 N-cm) | 青 | 150 - 180 (68-82) |
| 039-05-053 | 50 lb/in (565 N-cm) | 緑 | 180 - 210 (82-95) |
| 039-05-054 | 24.95 kg/in (621 N-cm) | 黄色 | 210 - >240 (95-109) |

コイルスプリングの取り替え

- 32mm 6 ポイントのソケットレンチを使い、プレロードトップキャップを緩めて外します。フォークを少し圧縮してコイルスプリングを外します。その際、しっかりスプリングを引き出さないとブラジャーシャフトから分離しないことがあります。スプリングを布で拭いてカラーコードを確認します。
- スペーサーを取り付け、トップキャップを 1864 N-cm までトルクレンチで締めます。アッパーチューブを下げ、新しいスプリングを取り付けます。
- 107 ページのサグの設定に従い、サグを測定し、設定します。

トラベル量の変更 (36 TALAS)

トラベル量は自転車に乗っていても乗っていなくても変更可能です。

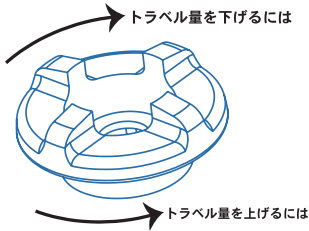
トラベル量を下げるには

150 mm (最大に伸張させた状態)のトラベル量から、TALAS のノブ (前ページ写真 1) を右回りに回してトラベル量を短くします。1回のクリックごとに 3 mm トラベル量が変わります。3.5 回転中に 15 ポジションの設定があります。

ノブを必要な回数だけクリックした後、フォークを数秒圧縮してそのまま維持します。2、3 回フォークを回すと、下げたトラベル量にフォークが維持されます。

トラベル量上げるには

下げたトラベル量から、TALAS のノブを左回りに回してトラベル量を上げます。ノブを必要な回数だけクリックした後、前輪を数秒上げフォークを伸張させます。



リバウンド調節 (全モデル)

リバウンドノブは、右側のフォークレッグ上部にある赤いノブで、15 段階のクリック調整が可能です。リバウンドによって、圧縮後のフォークの伸張速度が制御されます。ノブを右方向に回すとリバウンドが遅くなり、ノブを左方向に回すとリバウンドが早くなります。

走行開始時にはリバウンド調節ノブを右回りに止まるまで完全に回した後、左回りに 8 クリック回します。

| リバウンド | ノブの設定 (フルインから OUT ヘックリック) | 設定の説明 | チューニング のヒント | 設定のヒント |
|---|------------------------------|-----------|------------------------------|---|
| <p>遅い (右回り) 1</p> <p>速い (左回り) 15</p> <p>トップキャップ 上の右側のノブ</p> | <p>1</p> | 遅いリバウンド | 遅すぎると、フォークが沈み込み、固い乗心地となります。 | スプリングレートまたは空気圧を増加する時には、リバウンドを遅くする必要があります。 |
| | <p>8</p> <p>(工場出荷時の設定)</p> | 平均的なリバウンド | | |
| | <p>15</p> | 速いリバウンド | 速すぎると、トラクションが少なく、ホッピングが起きます。 | スプリングレートまたは空気圧を減少する時には、リバウンドの設定を速める必要があります。 |

高速圧縮調節 (RC2のみ)



高速圧縮ダンピングは、トラベルを通じてフォークを移動するのにかかる力とバンプに対する車輪の反応を制御します。この調節器は各方向に止まるまで回転し、15クリックの調節段階があります。工場の出荷時には、完全なアウトポジションから1クリック内側（左回り）に事前設定されています。ノブは、黒い保護キャップで保護されています。FOX 36は、必ず黒い保護キャップをつけた状態で走行してください。

| 高速圧縮 | ノブの設定 (フルアウトからINヘクリック) | 設定の説明 | チューニングのヒント |
|---|---------------------------|--------|---|
| <p>柔らかい 1 固い 15</p> <p>右側下部の 大きいノブ</p> | 1 ↑ | 柔らかい圧縮 | 最大のホイールのトラクションとバンプに対する柔軟性。柔らかすぎると、スクエアエッジヒットで頻繁にボトムしたり、Gアウトすることがあります。 |
| | 1 (工場出荷時の設定) | 平均的圧縮 | |
| | ↓ 15 | 固い圧縮 | ボトムアウトを減らし、最大のバンプ吸収力があります。固すぎる設定の場合は、トラクションが悪く固い乗心地、且つトラベルの一部しか使わないことがあります。 |

高速圧縮調節器の「ブースト」機能 (RC2のみ)

高速圧縮調整器には、最大の"ブースト"設定を備えています。この設定により、バンプの力の抵抗を、調節器のリニア範囲を遙かに超え、フルフォームで止まるまで引き上げることができます。

"ブースト"機能を有効にするには、高速圧縮ノブを、フルイン（右回り）ポジションで回し、ハンドトルクで固く締まるストップで止めます。ノブをフルインポジションまで回したり、"ブースト"機能を解除するために緩める場合には、3mmのヘキサキーが利用できます。



高速圧縮ノブには3mmのヘキサキーやこのノブを回すのに役立つ類似のツールを挿入できる機能があります。いずれの方向についても、ストップを超えてノブを締め過ぎることがないようにしてください。

低速圧縮調節 (RC2のみ)



低速圧縮ダンピングが、乗手の体重のシフトやブレーキをかけた場合の自転車の反応を制御します。この調節器は各方向に止まるまで回転し、17クリックの調節段階があります。工場の出荷時には、完全なアウトポジションから1クリック内側（左回り）に事前設定されています。ノブは、黒い保護キャップで保護されています。FOX 36は、必ず黒い保護キャップをつけた状態で走行してください。

| 低速圧縮 | ノブの設定 (フルアウトからINヘクリック) | 設定の説明 | チューニングのヒント |
|---|---------------------------|--------|---|
| <p>柔らかい 1 固い 17</p> <p>右側下部の 小さいノブ</p> | 1 ↑ | 柔らかい圧縮 | 最大のホイールのトラクションとバンプに対する柔軟性。柔らかすぎると、過度のブレーキダイブが起きたり、ふらつきを感じたりします。 |
| | 1 (工場出荷時の設定) | 平均的圧縮 | |
| | ↓ 17 | 固い圧縮 | ブレーキダイブが少なく、トラベルの高い位置にフォークを保ちます。固すぎると、ルーズな状態でトラクションが弱くなります。 |

油圧ボトムアウトシステム

Fox 36 R および RC2 には、特許申請中の内部調節可能な油圧ボトムアウトコントロールシステムが備わっています。この機能は Fox サービスセンターによってカートリッジ内で調節できます。工場からの出荷時には中位の設定に事前設定されています。



適切なツールのある Fox Racing Shox の認定サービスセンターでない限り、Fox 36 RC2 または R 密閉カートリッジシステムを絶対に分解しようとししないでください。



左側フォークレグの低部にあるスロットは、調整用ではありません。これは TALAS ベーススタッドから下部のナットを緩めるときに使用します。

各走行前点検

- 20mm の軸ピンチボルトとクラウンピンチボルトが適切に調整され、締められていることを確認します。
- 石鹸と水でフォークの外側を洗浄し、柔らかな布で水分を拭き取ります。シール/アッパーチューブの接合部には直接、水を吹きかけないでください。フォークには高压洗浄機を使用しないでください。
- 損傷がないかどうか、フォークの外側全体を検査します。外側の部品に破損がある場合には、フォークを使用しないでください。この他の検査、修理に関してはお近くのディーラーあるいは FOX Racing Shox までご連絡ください。
- ヘッドセット調節をチェックしてください。緩んでいる場合には、メーカーの推奨値に従って調節します。
- ブレーキケーブルあるいはホースが正しく固定されているどうかチェックします。
- 平らな場所で前輪と後輪のブレーキが正しく作動するかどうかチェックします。

メンテナンスの間隔

Fox 36 の性能、安全性、および持続期間は、タイムリーで適切なメンテナンスに左右されます。また、厳しい環境下で使用する場合は、より頻繁な FOX 36 のメンテナンスが必要となります。適切な間隔で、下記の予防的メンテナンスを定期的に行なうようにします。

| 作業項目 | 走行のあと 毎回 | 25時間 ごと | 100時間 ごと | 年に1度ま たは走行 200時間毎 |
|--------------------|-------------|------------|-------------|-------------------------|
| 表面の洗浄と乾燥 | X | | | |
| ダストワイパーを拭く | | X | | |
| フォームリングを点検し、潤滑油を注す | | X | | |
| 構造上の点検を行なう | | | X | |
| ブッシングの検査 | | | | X |
| オイル交換 | | | | X |

シールおよびフォームリング

FOX 36には、フォークがどんな状況下でもスムーズに作動するように設計されたシーリングシステムが備わっています。このシステムには2つの部品があります。フォークシールとフォームリングです。フォークシールは、当社が特許を有するスクレーパーリップジオメトリー機能を有し、それによってフォークから泥や埃などを排出し、フォークにオイルを保持できます。フォームリングはフォークリングの直下に位置します。ここはオイルで満たされ、アッパーチューブがこの近くを通過するたびにアッパーチューブにオイルを供給します。これによってフォークのスムーズな上下運動が可能になります。

FOX 36はメンテナンスを最小限に留めるように設計されていますが、フォークシーリングシステムの定期的な点検と手入れは必ず行なってください。アッパーチューブにオイルやグリースが少量付着していくのは、FOX 36では正常なことで、フォークがスムーズに作動し、泥や埃などを外に出すのに必要な機能です。またフォークシールは工場でグリースを塗って出荷されています。ただし、このグリースは、ならし運転の期間にシールから流れ出ることがあります。

シールおよびフォームリングに関するサービス

自転車を逆さまに保管するとフォークが逆さになるので、オイルがフォームリングまでつたわってホームリングを潤滑し、次の乗車の準備ができます。次のようにして、シールとフォームリングの状態をチェックします。

1. フォークシールの周縁には小さな切り目が複数あります。これらのスロットに小さく平らなブレードドライバーを入れてローアーレグからシールをてこの原理で持ち上げます。緩んだら、ローアークラウンに届くまで持ち上げます。この際、ドライバーの先端は、フォークの塗料が損傷を受けないようにテープか他の材質でカバーすることをお勧めします。
2. アッパーチューブとローアーレグの接合部の回りを清潔な布で包みます。この作業はシールをきれいにする間、泥や埃から守るためです。
3. 布でシールの外径を拭きます。きれいになるまで、汚れを拭き取ります。
4. 布を取り除き、ローアーレグ内に見えるフォームリングをチェックします。リングはオイルで覆われ、泥や埃や破片が付いていないはずですが。フォームリングが乾燥している場合は、数ccのFOXサスペンション液を使って潤滑します。
5. アッパーチューブを拭き、ローアーレグにシールを通します。慎重にシールを押しして元の場所に収めます。薄く平たいブレードドライバーを使って、アッパーチューブとフォークブレースの間に押し入れることもできます。この際、ドライバーのブレードはシールが損傷を受けないようにテープか布でカバーすることをお勧めします。シールがローアーレグの上部表面にしっかり位置していることを確認します。
6. 余分なオイルを拭き取り、フォークを2、3回転させて、適切に作動するかどうかチェックします。

構造上の点検

アッパーチューブ

アッパーチューブの傷やへこみは、シールやブッシングが早期に摩耗する原因となるため、日ごろから気を付けて探しておきます。大きな傷やへこみは、本製品の完全性を損なう恐れがあります。お手持ちのFox 36にそのような状態が認められる場合は、Fox サービスセンターにご連絡ください。

クラウン

クラウンに破損や変形、亀裂がないかチェックします。そのような状態が認められる場合は、Fox サービスセンターにご連絡ください。

ローアーレグ

ローアーレグのブレース部分、チューブセクション、ディスクブレーキ搭載部分、通過軸ドロップアウトの周辺に何も破損がないか点検します。ペンキの亀裂や剥離は、構造的な破損を示す兆候である場合があるのでチェックします。以下の方法でドロップアウトを点検します。

軸を配置し、ピンチボルトをトルクで適切な設定(19in-lb / 215 N-cm)に締めます。ドロップの下側に隙間があることが必要です。隙間がなく壁が接触している場合は、ピンチボルトが締め過ぎであることを示す兆候です。この部分の素材はピンチボルトの締め過ぎにより、圧縮されている場合があります。お手持ちのFox 36にそのような状態が認められる場合は、Fox サービスセンターにご連絡ください。

ブッシングのテクノロジーと検査

FOX 40 は流体潤滑を採用しています。このシステムでは、オイルが圧縮ストローク時に、スロットの付いた長いブッシングへ注入されます。フォークの上下移動によって、オイルはブッシング、アッパーチューブおよびシールの間に入り込みます。

温度が高いと、熱膨張作用によりブッシングはアッパーチューブを締め付け、通常の作動をしていても高摩擦および結合を引き起こします。従って、ブッシングに正しいクリアランス（すき間）を持たせることは、通常の作動時に生じるフォークの結合を防ぐ上で重要です。

製造工程で確実に各部品が機能し適合するように、幾何学的寸法測定および公差設定（GD&T）が設計段階で採用されています。ブッシングは装着前に採寸され、装着後も再度、採寸されます。適切なブッシングの交差は、直径クリアランス0.0015インチ～0.0090インチ（0.0381～0.2286mm）です。

ショールームテスト

フロントブレーキをかけて停止している間、フォークを前後に揺ると、ブッシングにはブッシングとアッパーチューブを分離するための潤滑オイルがごくわずかだけ供給されます。この段階ではブッシングが少しだけ動くことに気付かれることでしょう。フォークブッシングには正しく機能するためにクリアランスが必要です。クリアランスが低すぎると、温度上昇したときに、高摩擦や結合またはブッシングの停止を招きます。

実地テスト

通常の走行条件下では、薄い油膜によってアッパーチューブからブッシングが完全に分離するとき、流体潤滑が起っています。流体潤滑技術は、ブッシングに金属が接触しないので、摩擦を非常に低く抑えられ、ブッシングやシャフトへの磨耗も皆無です。流体潤滑時には、通常のブッシングのクリアランスは目立ちません。

ブッシングは年に一度、激しい磨耗をしているかどうか点検する必要があります。アッパーチューブとローアーレグに、全体にわたって激しい動きが見られた場合は、正規 FOX Racing Shox サービスセンターあるいは FOX Racing Shox に連絡してご相談ください。ドロップアウト（軸）でローアーレグを掴み、後輪の方へフォークをまっすぐ押します。その後、自分の方に引きつけます。次に、アッパーチューブとシールの接合部の近くのフォーク部位を掴み、同じことを繰り返します。激しい動きが見られた場合は、クイック・レファレンス・ガイドを参照して FOX Racing Shox または正規 FOX Racing Shox サービスセンターにご連絡ください。

オイル交換 (36 TALASのみ)

以下のツールと備品が必要です。32mm の 6 ポイントソケット、10mm のオープンエンドレンチまたはソケット、15mm の深さの 6 ポイントソケット、トルクレンチ、2mm のヘキサキーレンチ（RC2のみ）、プラスチックハンマー、小型ドライバー、オイル受け皿、cc または mL 単位の計量容器、清潔で乾いた糸くずの出ないタオル、および下記のもの。

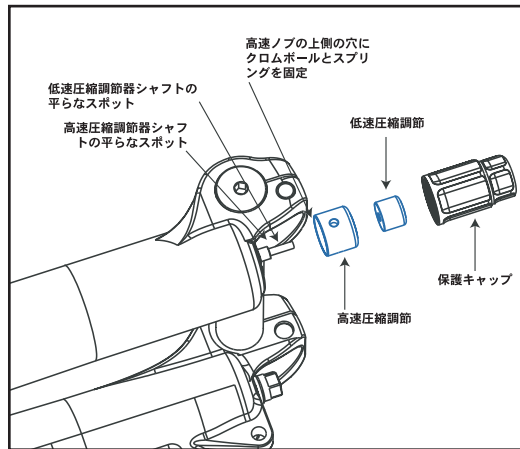
| 数量 | 部品番号 | 部品名 |
|----|--------------|---|
| 1 | 025-03-004-A | 1 qt. (946cc) ボトルの Fox サスペンション液 (7 wt.) |
| 1 | 241-02-008 | アルミ製クラッシュワッシャー |
| 1 | 241-01-011 | 13mm のクラッシュワッシャー |

Fox 36 R や RC2 フォークのオイル交換は、各レグでローアーレグオイルバスを変更することです。このオイルバスのサービスは、上記の一般ツールで行うことができ、フォークを自転車から外す必要はありません。このサービスにはまた、密閉 R または RC2 カートリッジの分解は必要ありません。



適切なツールのある Fox Racing Shox の認定サービスセンターでない限り、Fox 36 RC2 または R 密閉カートリッジシステムを絶対に分解しようとしないでください。

1. 自転車あるいはフォークをスタンドに置きます。ディスクブレーキキャリパーをローアーレグから外してハンドルバーまたはフレームに固定します。5mmのヘキサキーレンチを使用して、4つの軸ピンチボルトを緩めます。5mmのヘキサキーレンチを使用して、軸ファイブフルレボリューションを左に回してローアーレグから外します。前輪を自転車から外します。
2. フォークの左側下に清潔で乾いたオイル受け皿を置きます。10mmのオープンエンドレンチまたはソケットを使用して、底部のナットを取り外します。底部のナットを緩める際には、ローアスタッドのスロットには小型のドライバーを使う必要があるかもしれません。底部のナットとクラッシュワッシャーを緩めて外します。ローアーレグを止まるまで下に引っ張ります。オイルをオイル受け皿に排出します。
3. **(RC2のみ)** 黒い保護キャップを緩めて外します。2mmのヘキサキーレンチを使用して、設定ネジを約2回転させて緩め、低速圧縮調節器ノブを外します。2mmのヘキサキーレンチを使用して、設定ネジを約2回転させて緩め、高速圧縮調節器ノブを外します。直径約3mmのクロームスチールディテントボールとディテントスプリングが、高速圧縮調節器ノブの機械穴にあることに注意します。



4. 15mmの深さのソケットレンチを使用して、底部のナットを4回転緩めます。フォークの右下に清潔で乾いたオイル受け皿を置きます。底部のナットに（調節器を保護するため）15mmの深さのソケットレンチを使用して、プラスチックハンマーで底部のナットを軽く叩き、ローアーレグからベーススタッドを外します。底部のナットと13mmのクラッシュワッシャーをベーススタッドから外して脇に置いておきます。ベーススタッドを押し上げてフォークのオイルパスのオイルを受け皿に排出させます。
5. オイルが黒や暗い灰色に見える場合は、ローアーレグの両側をきれいなオイルでフラッシュするとよいでしょう。ローアーレグをフラッシュするには、フォークを逆さにして各レグに20cc程追加します。フォークが自転車から外れている場合は、フォークの内側にきれいなオイルがまんべんなくかかるように動かします。滴り終わるまでフォークを受け皿に排出させます。
6. 自転車またはフォークをさかさまにし、ローアーレグを引き抜きます。ローアーレグの右側底部の穴（ダンパー側）にFOXサスペンション液（7 wt.）を25cc注入します。ローアーレグを上向きにしたまま、左側底部の穴（TALAS側）にFOXサスペンション液（7 wt.）を15cc注入します。
7. 新しい右側13mmのクラッシュワッシャーを古い底部のナットでつけられるまで、ローアーレグを下にスライドします。底部のナットを締めます（回すのは最高2～3回）。15mmの深さの6ポイントソケットを使用してカートリッジの底部のナットを565 N-cmのトルク値に締めます。
8. ローアーレグをさらにスライドさせて下げ、フォークの左側のプランジャースタッドがローアーレグの穴に通るようにします。薄いドライバーを使用してプランジャーシャフトを移動させ、ローアーレグの穴に通るように位置を調節します。古い底部のナットで新しい左側のアルミ製クラッシュワッシャーを取り付けます。底部のナットを締めます（回すのは最高2～3回）。10mmのソケットを使用して、プランジャーの底部のナットを565 N-cmのトルク値まで締めます。

9. (RC 2のみ) 自転車の右側を上にします。右側ダンパーの底部にある2つの圧縮調節器シャフトに注目します。両方の平らなスポットが見つからない場合は、ニードルノーズプライヤーで軽くシャフトを傾けて調節器シャフトを回転します。2mmのヘキサキーレンチを使用して、設定ネジがシャフトの平らなスポットで締まるようにRC2 高速圧縮調節器ノブの位置を調節して取り付けます。ディテントスプリングとクロームスチールボールが機械穴の上側に来るように気を付けます。ノブが曲がる原因となるため、このノブを締め過ぎないように気を付けます。ここで、設定ネジがシャフトの平らなスポットで締まるようにRC2 低速圧縮調節器ノブの位置を調節して取り付けます。圧縮ノブを両方 45 N-cm のトルク値に締めます。ノブを回して自由に回転することを確認し、RC2 保護キャップを取り付けます。
10. ローアーレグを布で拭きます。ディスクブレーキキャリアパーを再度取り付け、ネジをディスクブレーキメーカーのトルク指定値に合わせて締めます。5mmのヘキサキーソケットとトルクレンチを使用して、前輪を再度取り付け、軸を通して 215N-cm のトルク値に締めます。左側軸のピンチボルト2つを締め、215N-cm のトルク値にします。フォークを数回圧縮して、フォークレグの右側を摩擦の低いポイントに安定させます。右側軸のピンチボルト2つを締め、215N-cm のトルク値にします。

TALAS のメンテナンス

TALAS フォークには、特許を有するシールが使われ、事実上メンテナンス無用を可能にしています。TALAS システムを 18ヶ月ごと、あるいは 300 乗車時間ごとに再構築することをお勧めします。これ以外の予防的メンテナンスについては、本マニュアル表紙裏のクイック・レファレンス・ガイドを参照してください。



TALAS システムのフロート液とシールの変更には、IFP ピストンに対応する特殊ツールが必要です。このメンテナンスは、認定された Fox Racing Shox サービスセンターが行うことを、強くお勧めします。

左側のフォークレグの下部にあるスロットは調整用ではありませんので、注意してください。これは TALAS ベーススタッドから下部のナットを緩めるときに使用します。

オイル交換 (36 VANのみ)

以下のツールと備品が必要です。32mm の 6 ポイントソケット、10mm のオープンエンドレンチまたはソケット、15mm の深さの 6 ポイントソケット、トルクレンチ、2mm のヘキサキーレンチ (RC2のみ)、プラスチックハンマー、小型ドライバー、オイル受け皿、清潔で乾いた糸くずの出ないタオル、cc または mL 単位の計量容器、および下記のもの。

| 数量 | 部品番号 | 部品名 |
|----|--------------|--|
| 1 | 025-03-004-A | 1 qt. (946 ml) ボトルの Fox サスペンション液 (7 wt.) |
| 1 | 241-01-002-C | 8mm のクラッシュワッシャー |
| 1 | 241-01-011 | 13mm のクラッシュワッシャー |

Fox 36 R や RC2 フォークのオイル交換は、各レグでローアーレグオイルバスを変更することです。このオイルバスのサービスは、上記の一般ツールで行うことができ、フォークを自転車から外す必要はありません。このサービスにはまた、密閉 R または RC2 カートリッジの分解は必要ありません。



適切なツールのある FOX RACING SHOX サービスセンターでない限り、FOX 36 RC2 または R 密閉カートリッジシステムを絶対に分解しようとししないでください。

1. 自転車あるいはフォークをスタンドに置きます。ディスクブレーキキャリアをローアーレグから外してハンドルバーまたはフレームに固定します。5mmのヘキサキーレンチを使用して、4つの軸ピンチボルトを緩めます。5mmのヘキサキーレンチを使用して、軸ファイブフルレボリューションを左に回してローアーレグから外します。前輪を自転車から外します。
2. フォークの左側下に清潔で乾いたオイル受け皿を置きます。10mmのオープンエンドレンチまたはソケットを使用して、底部のナットを6回転完全に緩めます。プラスチック面のあるハンマーで底部のナットを軽く叩き、ローアーレグからプランジャーシャフトを取り外します。底部のナットと8mmのクラッシュワッシャーを緩めて外します。ローアーレグを止まるまで下に引っ張ります。オイルをオイル受け皿に排出します。
3. **(RC2のみ)** 黒い保護キャップを緩めて外します。2mmのヘキサキーレンチを使用して、設定ネジを約2回転させて緩め、低速圧縮調節器ノブを外します。2mmのヘキサキーレンチを使用して、設定ネジを約2回転させて緩め、高速圧縮調節器ノブを外します。直径約1/8インチのクロームスチールディテントボールとディテントスプリングが、高速圧縮調節器ノブの機械穴にあることに注意します。
4. 15mmの深さのソケットレンチを使用して、底部のナットを4回転緩めます。フォークの右下に清潔で乾いたオイル受け皿を置きます。底部のナットに(調節器を保護するため)15mmの深さのソケットレンチを使用して、プラスチックハンマーで底部のナットを軽く叩き、ローアーレグからベーススタッドを外します。底部のナットと13mmのクラッシュワッシャーをベーススタッドから外して脇に置いておきます。ベーススタッドを押し上げてフォークのオイルバスのオイルを受け皿に排出させます。
5. オイルが黒や暗い灰色に見える場合は、ローアーレグの両側を汚れのないオイルでフラッシュするとよいでしょう。ローアーレグをフラッシュするには、フォークを逆さにして各レグに20cc程追加注入します。フォークが自転車から外れている場合は、フォークの内側に汚れのないオイルがまんべんなくかかるように動かします。滴り終わるまでフォークを受け皿に排出させます。
6. ローアーレグを上向きにしたまま、左側底部の穴(スプリング側)にFOXサスペンション液(7 wt.)を25cc注入します。ローアーレグを上向きにしたまま、左側底部の穴(スプリング側)にFOXサスペンション液(7 wt.)を25cc注入します。
7. 新しい右側13mmのクラッシュワッシャーを古い底部のナットでつけられるまで、ローアーレグを下にスライドします。底部のナットを締めます(回すのは最高2~3回)。15mmの深さの6ポイントソケットを使用してカートリッジの底部のナットを565 N-cmのトルク値に締めます。
8. ローアーレグをさらにスライドさせて下げ、フォークの左側のプランジャースタッドがローアーレグの穴に通るようにします。薄いドライバーを使用してプランジャーシャフトを移動させ、ローアーレグの穴に通るように位置を調節します。古い底部のナットで新しい左側の8mmクラッシュワッシャーを取り付けます。底部のナットを締めます(回すのは最高2~3回)。10mmのソケットを使用して、プランジャーの底部のナットを565 N-cmのトルク値まで締めます。
9. **(RC2のみ)** 自転車の右側を上にします。右側ダンパーの底部にある2つの圧縮調節器シャフトに注目します。両方の平らなスポットが見つからない場合は、ニードルノーズプライヤーで軽くシャフトを傾けて調節器シャフトを回転します。2mmのヘキサキーレンチを使用して、設定ネジがシャフトの平らなスポットで締まるようにRC2高速圧縮調節器ノブの位置を調節して取り付けます。ディテントスプリングとクロームスチールボールが機械穴の上側に来るように気を付けます。ノブが曲がる原因となるため、このノブを締め過ぎないように気を付けます。ここで、設定ネジがシャフトの平らなスポットで締まるようにRC2低速圧縮調節器ノブの位置を調節して取り付けます。圧縮ノブを両方45 N-cmのトルク値に締めます。ノブを回して自由に回転することを確認し、RC2保護キャップを取り付けます。
10. ローアーレグを布で拭きます。ディスクブレーキキャリアを再度取り付け、ネジをディスクブレーキメーカーのトルク指定値に合わせて締めます。5mmのヘキサキーソケットとトルクレンチを使用して、前輪を再度取り付け、軸を通して214 N-cmのトルク値に締めます。左側軸のピンチボルト2つを締め、214 N-cmのトルク値にします。フォークを数回圧縮して、フォークレグの右側を摩擦の低いポイントに安定させます。右側軸のピンチボルト2つを締め、214 N-cmのトルク値にします。
11. これで準備完了です。さあ、走行をお楽しみください。

チューニング時の注意事項：

